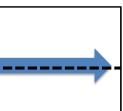
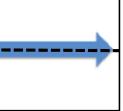
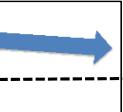
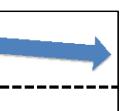
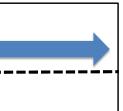
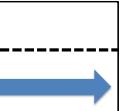


野菜の需給・価格動向レポート(平成29年9月19日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	8月の価格情報			9月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	9月上旬の関東・近畿ブロックの入荷量 () 内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月末までの見通し		※台風18号の影響は加味していません	
	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		中旬				指定野菜の関東・近畿ブロックの入荷量 () 内は、本年と過去3カ年平均値との比率			
	中旬	下旬	上旬				中旬	下旬		
葉茎菜類	キャベツ	74.19	82 (110%)	88 (119%)	74.19	82 (111%)	・12,820t (99%)	群馬(79)	 群馬産は、生育及び品質は概ね良好で、大玉比率も高いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産の出荷は平年並みと見込まれるが、主要な野菜の不足感で強保合い（つよもちあい）となっていることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		88.91	88 (99%)	93 (105%)	88.91	88 (99%)	・4,806t (97%)	群馬(72), 長野(27)		
	たまねぎ	93.34	80 (86%)	74 (79%)	93.34	71 (76%)	・6,573t (86%)	北海道(90)	 北海道産は、一部ほ場で湿害の懸念があるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷は引き続き平年並みと見込まれるが、輸入ものの残量が多く、7月から続く安値基調により、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		93.34	80 (86%)	74 (79%)	93.34	72 (77%)	・2,735t (93%)	北海道(79), 兵庫(18)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	414 (144%)	323 (113%)	287.00	294 (103%)	・2,284t (103%)	青森(26), 秋田(20), 北海道(17)	 青森産は、8月の降雨による収穫作業の遅れ等で出荷ペースが鈍かったものの、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、8月の降雨で生育への影響が懸念されたものの、影響は軽微で、生育はおおむね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、一部で日照不足の影響は見られるものの、影響は軽微で、生育はおおむね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 青森産、秋田産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		487.13	415 (85%)	433 (89%)	487.13	476 (98%)	・181t (89%)	香川(25), 徳島(20), 三重(14), 大阪(10), 奈良(9)		
	はくさい	81.96	76 (93%)	104 (127%)	81.96	107 (130%)	・4,253t (89%)	長野(94)	 長野産は、干ばつ傾向で生育が緩慢になっており、巻きが甘いものが見られるものの、9月下旬には二期作の出荷が始まることから、平年よりやや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 長野産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるもの、量販店における鍋の販売促進もあり、強保合い（つよもちあい）となっていることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		88.72	74 (83%)	105 (118%)	88.72	107 (120%)	・2,474t (92%)	長野(100)		
	ほうれんそう	583.95	823 (141%)	733 (126%)	583.95	829 (142%)	・401t (103%)	群馬(32), 栃木(22), 茨城(17)	 群馬産は、8月までの天候不順による生育不良から、細株が散見されたものの、9月下旬以降は平地の出荷も開始されることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、8月までの天候不順による生育不良から細株が散見されたものの、現在の好天により回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、8月の曇天の影響により徒長等が見られるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		670.86	851 (127%)	757 (113%)	670.86	821 (122%)	・156t (77%)	岐阜(80), 北海道(8)		
	レタス (結球)	158.27	105 (67%)	145 (92%)	158.27	176 (111%)	・4,824t (91%)	長野(82)	 長野産は、天候不順により結球遅れが発生しているものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 長野産の出荷は引き続き平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		152.57	106 (69%)	155 (102%)	152.57	189 (124%)	・1,412t (87%)	長野(98)		
果菜類	きゅうり	221.22	283 (128%)	340 (154%)	221.22	339 (153%)	・3,647t (83%)	福島(28), 群馬(12), 岩手(11), 埼玉(11)	 福島産は、8月上旬の天候不順により、露地作に生育遅れ、生育不良等がみられることがから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、抑制作の出荷は概ね順調で、品質も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、出荷終盤に向かい、生育は概ね順調なことから、今後の天候次第ではあるが、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		232.80	287 (123%)	341 (146%)	232.80	338 (145%)	・1,110t (98%)	福島(32), 北海道(24), 群馬(10), 愛媛(9)		
	トマト (大玉)	252.46	259 (102%)	351 (139%)	252.46	459 (182%)	・3,342t (72%)	福島(18), 千葉(17), 青森(14), 北海道(14), 茨城(11)	 福島産は、曇天等の天候不順により着色が進まず、生育にはラフさがみられることがから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、8月までの天候不順により生育遅れがみられ、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているものの、遅れいた抑制作が回復傾向にあることから、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。青森産は、8月までの日照不足による小玉傾向のため、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産は、出荷終盤を迎えており、8月までの低温による生育遅れの影響が残るもの、現在気温が安定していることから、現在平年よりやや少なめの出荷は、平年並みの出荷に回復する見込み。	
		298.46	272 (91%)	355 (119%)	298.46	460 (154%)	・1,438t (72%)	北海道(34), 岐阜(31), 群馬(10), 岡山(8)		
	なす	230.51	271 (117%)	291 (126%)	230.51	345 (150%)	・1,882t (78%)	栃木(31), 群馬(29), 茨城(20)	 栃木産は、8月の曇天による生育不良でやや少なめの出荷となっており、現在は回復傾向となっていることから、今後は月末にかけて平年並みの出荷に回復する見込み。群馬産は、8月の曇天による着果不良の影響がみられたことから、引き続きやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育及び品質は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		232.81	258 (111%)	257 (110%)	232.81	297 (128%)	・704t (85%)	山梨(31), 徳島(17), 大阪(8), 奈良(8)		
	ビーマン	263.58	362 (137%)	374 (142%)	263.58	353 (134%)	・1,157t (106%)	茨城(43), 岩手(38)	 茨城産は、8月の夜温の低下で生育遅れが発生したことから、現在少なめの出荷となっているものの、9月の好天による生育回復により、今後は平年並みに回復する見込み。岩手産は、8月の天候不順により、現在少なめの出荷となっているものの、抑制作の出荷が順調なことから、今後は、天候次第ではあるものの、平年並みに回復の見込み。	
		296.27	325 (110%)	369 (125%)	296.27	358 (121%)	・484t (114%)	青森(26), 茨城(13), 兵庫(13), 大分(9)		
根菜類	だいこん	94.60	85 (90%)	83 (88%)	94.60	92 (97%)	・3,971t (84%)	北海道(59), 青森(36)	 北海道産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、8月の台風やヤマセの影響による生育の遅れから、現在出荷は少なめとなっているものの、9月に入り肥大が概ね順調であることから、今後はやや少なめの出荷に回復する見込み。	
		95.37	82 (86%)	74 (78%)	95.37	87 (92%)	・1,753t (97%)	北海道(64), 岐阜(11), 青森(11), 岩手(9)		
	にんじん	123.08	62 (50%)	71 (58%)	123.08	73 (59%)	・4,165t (99%)	北海道(90)	 北海道産は、一部ほ場で高温による発芽障害や天候不順による生育不良がみられるものの、道内主産地の生育は概ね順調なことから、引き続き多めの出荷の見込み。	
		123.11	61 (50%)	70 (57%)	123.11	66 (53%)	・1,933t (126%)	北海道(97)		

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。() 内は入荷シェアで平成28年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聽き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		8月の価格情報		9月の価格情報		主産地	生育及び価格の9月末までの見通し		※レポートの読み方について、注意書きを参照してください			
		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格			9月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率		「図の見方」			
		中旬	下旬	上旬	中旬		現時点の価格水準	平均価格(点線)	見通しの価格水準	平均価格		
いも類	さといも	254.79 (202%)	515 (148%)	377	254.79 (123%)	313	・262t (76%)	千葉(71)		千葉産は、8月までの天候不順の影響で小玉傾向となっており、現在平年より少なめの出荷となっているものの、9月に入り肥大が回復傾向であることから、今後の天候次第ではあるが、やや少なめの出荷に回復する見込み。		
	ばれいしょ	220.11 (218%)	480 (123%)	270	220.11 (163%)	359	・37t (94%)	宮崎(33)、愛媛(25)、大阪(13)、中国(13)		千葉産の出荷はやや少なめに回復すると見込まれるもの、秋商材としての需要が見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、今後は平均並みに近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	ばれいしょ	111.77 (102%)	114 (108%)	121	111.77 (102%)	114	・3,832t (96%)	北海道(96)		北海道産は、8月までの曇天の影響で大玉は少ないものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
	ばれいしょ	111.77 (95%)	107 (98%)	110	111.77 (84%)	94	・1,784t (94%)	北海道(95)		北海道産の出荷は引き続き平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。		

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 句別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/ kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聽き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類		8月の価格情報		9月の価格情報		主産地	生育及び価格の9月末までの見通し		「図の見方」			
		(参考)過去5カ年平均価格		東京都・大阪市場の旬別価格			9月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率		現時点の価格水準			
		中旬	下旬	上旬	中旬		現時点の価格水準	平均価格	平均価格(点線)	見通しの価格水準		
洋菜類	ブロッコリー	386.86 (103%)	400 (133%)	513	485.78 (108%)	527	・392t (116%)	北海道(52)、長野(26)		北海道産は、生育は概ね順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。長野産は、降雨による生育遅れで出荷が遅れ気味であるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
	ブロッコリー	404.47 (115%)	466 (127%)	512	453.84 (117%)	532	・155t (130%)	北海道(46)、長野(28)		北海道産及び長野産の出荷は平年並みと見込まれ、需要は堅調なことから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。		
根菜類	ごぼう	295.61 (144%)	427 (128%)	379	268.33 (126%)	338	・247t (98%)	青森(45)、茨城(14)、群馬(11)		青森産は、8月の台風による肥大遅れが収穫に影響し、引き続きやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、肥大は良好で前進気味の出荷となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、肥大は良好なもの、播種期の多雨の影響がみられることが、引き続き少なめの出荷の見込み。		
	ごぼう	173.09 (184%)	318 (123%)	213	175.79 (124%)	218	・193t (97%)	茨城(25)、青森(22)、群馬(16)、北海道(15)		青森産、茨城産及び群馬産の出荷は、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
果菜類	かぼちゃ	175.73 (142%)	250 (133%)	234	141.85 (125%)	178	・1222t (103%)	北海道(94)		北海道産は、総じて生育は概ね順調で、大玉が多くなっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
	かぼちゃ	157.90 (137%)	216 (104%)	165	129.22 (102%)	132	・470t (88%)	北海道(80)		北海道産の出荷は引き続き平年並みと見込まれるもの、需要期に入ることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 句別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/ kgである。
3 句別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック 一 ばれいしょの需給動向について 一

ばれいしょ
今回は北海道を主産地とするばれいしょを紹介する。
原産地と日本への渡来
ばれいしょの原産地は南米のペルー、ボリビア付近といわれ、紀元500年頃から標高3千～4千メートルのアンデスの高原で栽培され、インカの重要な食用作物であった。
16世紀にスペイン人によりヨーロッパへ持ち込まれ、当初は観賞用とされていた。
日本へは江戸時代にインドネシアのジャカルタを東洋貿易の拠点としたオランダ人が長崎に持ち込んだといわれている。当時、ジャカルタはジャガトラと呼ばれていたことから、「ジャガトライモ」から「ジャガイモ」と呼ばれるようになったとされている。また、ばれいしょ（馬鈴薯）という名前は、馬の首に付ける鈴の形に似ていることから付けられたとされている。なお、日本で本格的な栽培が開始されたのは明治以降である。

主な種類と特徴

生食用の二大品種は、「男爵薯」と「メーケイン」であり、この2品種で国内総生産量の約3割を占める。いずれも昭和3年に米国から導入された。男爵薯は、粉質系でホクホクとした食感が特徴で、粉ふき芋、マッシュポテト、コロッケ等の料理に向いている。メーケインは粘質系で煮崩れしにくく、煮物やシチュー、カレーライス等の煮込み料理に向いている。

主に加工用に利用される「トヨシロ」はボテトチップやフレンチフライ等の原料として使われる。歩留まりが高く、粉質で糖度が低くでん粉量が多い。揚げても褐色になりにくい。

主にでん粉原料用に利用される「コナフブキ」は、でん粉含有量が高いため、でん粉原料用のほか、焼酎等の材料として利用される。

生産状況

「野菜生産出荷統計」によると、作付面積は平成18年の8万6600ヘクタールから平成27年には7万4700ヘクタールと約10%減少している。出荷量はここ10年では平成19年の237万トンをピークに漸減しているが、最近では約200万トン前後で推移している（図1）。

平成27年の都道府県別出荷量は1位の北海道が169万8000トンと全国の85%を占めている。次いで長崎県の8万1000トン（同4%）、鹿児島県の6万8000トン（同3%）と続く（図2）。

東京都中央卸売市場における平成28年の入荷状況は、平均して7000トン台で男爵薯は8～12月にかけて多く入荷されている（図3）。

輸入状況

日本貿易統計によると、輸入は9割以上を冷凍ばれいしょが占めている。冷凍ばれいしょは最近10年間では、年間30万トン台で推移しており、外食産業用のフライドボテトや量販店の惣菜などに使用される。生鮮ばれいしょは年々増加し平成28年は2.9万トンとなっており、ボテトチップ用の原料として輸入されている（図4）。

栄養と効用

ばれいしょの主成分はでん粉であるが、フランスでは「大地のりんご」と呼ばれるほど、ビタミン類を豊富に含む。また、高血圧予防に効果的なカリウム、腸内環境を改善する食物繊維等も豊富である。

図1 ばれいしょの作付面積と出荷

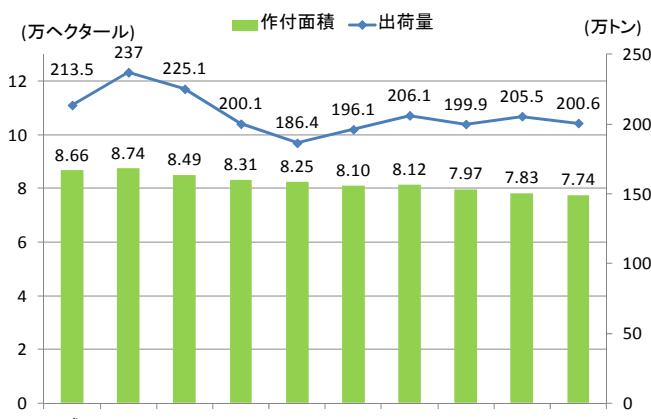


図2 ばれいしょの産地別出荷量(平成27)

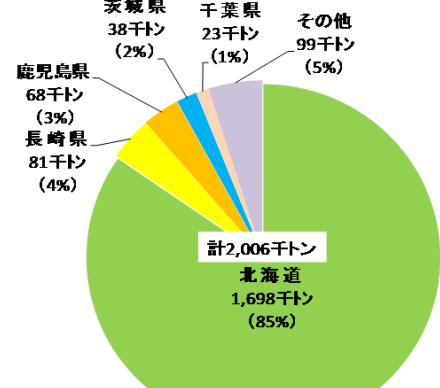
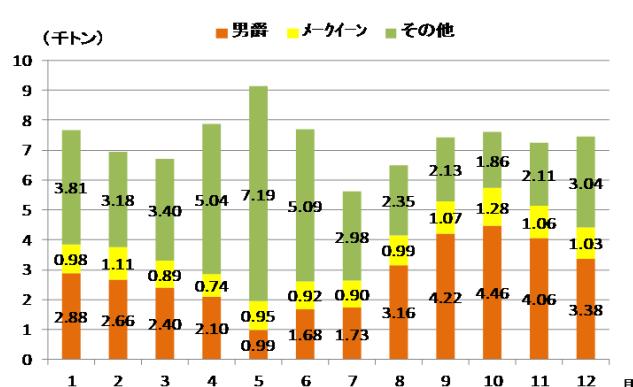


図3 ばれいしょの東京都中央卸売市場月別入荷量(平成28年)



資料:農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料:図1、図2 農林水産省「野菜生産出荷統計」図3 東京都中央卸売市場「市場統計情報月報」図4 財務省「日本貿易統計」）

図4 ばれいしょの輸入量

